

類似の繪畫なども若干發見せられ、其の結果ヂェララバードからラワル・ピン
ディ、Rawal-Pindi までの間に見る藝術は同一流派に屬すること疑ひなく、又
カーブールからバーミヤーンに亙るコヒスターン地方に就ても、同じ斷定が
下されたも同様であると考へてよいことになつた譯である。

結論——前記の問題は希臘佛教藝術に關係するもので、それは本題以外の
ものとし、扱て吾人の研究題目たる歴史地理の點では、立替法師のアフガニ
スタン旅行に關する此の研究に依て何物が得られるかと云ふと、先づ法師は、
その因習により、徹頭徹尾當時の本道を通つたと云ふことであるが、この本
道はその昔、又衰へてはるたが矢張り其の當時にあつても、貿易上最も重要
な地位に立つものであつた。即ち、印度西北地方の諸市場からバルク(ロマ領
アジアからペルシアを経て來る街道、支那からセリンダ Serinde 地方を経て來
る街道などの相會する地點の古い分岐點 *trivium* に達し、國際貿易路の系統に
屬するものであつた。そこで、イラン高原を横斷する此の本道はどの邊であ
の困難を極めるヒンヅクローシユ山脈を越えてゐたものか、それを知ることが